

改修された飯の山展望台からの眺望を

老朽化していた飯の山展望台の改修工事が12月に完了しました。

展望台の手すり上部は、大島大橋と同じ「ポモナグリーン」で彩られ、明るくきれいな色合いになっています。また、腐食していた手すりが新しくなり、床部分には防滑性ビニール床シートを貼っていますので、屋上までより安全に登ることができるようになりました。

展望台屋上に設置してある風景パネルも新しくなりましたので、そこから見える素晴らしい眺めと見比べてみるのも面白いかもしれません。ぜひ一度、きれいになった飯の山展望台に足を運んでみてください。



▲改修された飯の山頂上の展望台

周防大島の文化財 ④

文珠堂のサワラ (三浦)

《周防大島町文化財保護審議会副会長 南 敦》

文珠山(662.7m)の北側中腹に文珠堂がある。文珠堂広場に登り着くとスギ、ヒノキなどの木々に混じって、ひととき大きく高い木が1本ある。

この木の枝先のうろこのような葉(りん葉)は、ヒノキのりん葉の先が鈍いか円いのに比べて、鋭く尖っている。これは「サワラ」である。よく見ると、りん葉同士は離れていて細長く鋭く尖っている。サワラの園芸品種「シノビヒ

バ」である。

このサワラの測定結果は次の通りであった。

- ①地上高さ1.5mの目通り幹
- ②根回り約4m、③
- ④枝張り東約2.9m、西約2.9m、南約3m、北約3.3m
- ⑤全方位にほぼ均斉、④高さ約30m、⑤樹姿はほぼ直立。厳密には南東に約5度傾き、やや細長く伸びている。(測定日：令和2年12月3日)



▲文珠堂のサワラは山口県下で最大級



▲サワラ④とヒノキ⑤のりん葉

サワラはヒノキ科で日本固有種。日本語の漢名は榧。材は軽く、やわらかで割れやすいなど材質が劣ると考えられ、中国地方以南では植林を見ない。園芸品種のヒヨクヒバ、シノビヒバ、ヒムロなどは神社、寺院、個人の庭などによく植えられている。

県下でサワラの大きいものは美東町九瀬原の明林寺の目通り幹(2.25m、高さ20m)。他は目通り幹(2m以下)で小さい。

同じくシノビヒバの大きいものは鹿野町大泉の大泉墓地の目通り幹(2.6m、高さ16m)。他は記録になるものはない。現在手持ちの資料では、文珠堂のものが一番大きいと思われる。

◎主な参考文献

- (1)三宅貞敏「やまぐちの祈りの108樹、2006年」
- (2)岡 国夫「山口県の巨樹資料、2000年」

【P8 ちよび塩クイズ答え：答え②】

心身がリラックスするように、血管の緊張も緩み、血流が良くなることで血圧も下がります。